

## 日本薬理学会女性会員の現状に関するアンケート(調査結果)

### 自由記述 (100字以内)

22 薬理学会に入会したことが、あなたのキャリアパス形成に役立ちましたか？  
どのような点で役立ちましたか？ 100字以内で書いてください。(回答者数78名)

#### キャリアパス形成に関するご意見

- 1 学術的な点。
- 2 研究の幅が広がった。
- 3 投稿の機会に恵まれたため。
- 4 学会発表の場として活用できた。
- 5 学会発表という機会を得られた。
- 6 学会での情報発信と情報収集。
- 7 自分の研究分野を明らかにできた。
- 8 研究分野の流れ、知識が身についた。
- 9 学会発表の機会を持つことができたこと。
- 10 学会発表や論文投稿において、役立った。
- 11 授業を持つ上で、薬理が専門と認められたこと。
- 12 学会発表、参加を通じて、自己研鑽に役立った。
- 13 学会発表や論文投稿等で多くを学ぶことができた。
- 14 幅広い見聞を広げ、自分の研究に役立てることができたこと。
- 15 学会発表したことで、自分のしてきた研究の評価をされた。
- 16 薬理学の方向性が感じられ、知識等を得る機会があるから。
- 17 博士課程の研究成果を発表できたことが、一番の成果です。
- 18 薬学出身ではないため、学会発表では大いに勉強になります。
- 19 学会への参加により、いろいろなチャンスを得ることができました。
- 20 医学部卒の人間が少ない分野であったからパス形成に役立ったと思う。
- 21 薬理学会年会シンポジウムなどに発表させていただく機会を得られた。
- 22 薬理学会大会は薬物作用に関する発表が多く、状況を把握するのに役立っている。
- 23 常に良い刺激を受け、意識改革に繋がるので、将来について前向きに考えられるようになっている。
- 24 新薬開発やモデル作成等の知識が得られ、他社特許に記載された技術を理解するのに有意義である。
- 25 知識を大いに身につけることができた。薬理学会はあまり男女の差がなく、比較的大らかな学会であると思う。
- 26 薬理学の情報、考え方、時代の流れが学べた。また、他学会での認定の条件に薬理学会が含まれている。
- 27 学会での発表や論文がステップアップの足がかりになりました。また、最新の情報を知ることがです。
- 28 学会発表するために研究をさせてもらえるから(まず発表ありきという考え方が理解できないが、うちはそう。)
- 29 学会誌へ論文を掲載していただいたことで、論理的思考が身に付き、また、年会で他分野の研究者の方々と交流することで、公平な科学的判断を醸成できたと思います。
- 30 履歴書に書ける。
- 31 評議員にして頂いた。
- 32 現在の職に就く際。
- 33 学術評議員になれたこと。
- 34 学術評議員として貢献していること。
- 35 履歴書に記載できる(学術評議員など)。
- 36 研究業績評価の一項目に記入できる。
- 37 現職への採用時に評価されたかもしれませんが。
- 38 研究職の場合、学会に入っていないと相手にされない。

- 39 発表、情報交換の場として利用させていただきました。
- 40 現職への採用時に評価されたかもしれませんが。
- 41 学会発表を行い、評議員となり、キャリアアップとなった。
- 42 薬理学関係雑誌などに原稿が掲載されれば知名度が上がる。
- 43 今後、就職し学位を取得するにあたって、研究面での参考になりました。
- 44 学会で発表することにより研究内容を多くの方に知っていただき自分をアピールすることができる。
- 45 学会での発表を通じて、大学の同級生や先生方に、今の活動を知ってもらえることなど。
- 46 実際、関連性があるかどうかは分からないが、薬理学講座で常勤の職を得られたこと。
- 47 薬理学会年会において年会優秀発表賞に選ばれ、日本學術振興会特別研究員に応募する際業績として記入した。
- 48 学術評議員であるが、今の職場での、薬理研究出身者としてのひとつのステータスとなっている。
- 49 民間企業の方や、専門違いの方々との意見交換の際、一定の水準の学問的専門家として対応してもらえる。
- 50 業績報告の機会を得られるコネクションを作る場、具体的な例があるわけではありませんが、全体のイメージとしてです。
- 51 学会発表での意見交換は研究を進める上で参考になり、業績を増やすことができ、それがいくらかはキャリアパスに影響していると思う。

### 学会での交流(情報の共有)に関するご意見

- 52 人的交流。
- 53 人的交流が得られた。
- 54 人脈の形成に役立った。
- 55 学会を通して交流を深めた。
- 56 人との交流が広がったこと。
- 57 他大学の同じ分野の先生と知り合えた。
- 58 多くの研究者と知り合いになれた事。
- 59 薬理学分野の先生方との交流がとれた。
- 60 頑張っている女性研究者の先生の姿に励まされたこと。
- 61 多くの先生と出会い、知識や技術などを勉強させていただいた。
- 62 多くの良い人生の先輩、後輩の方々と知り合うことができた。
- 63 情報発信、情報収集という点でも教育研究におおいに役立っている。
- 64 薬理学会の教授同士のコミュニケーションを通じて今の就職先が決まりました。
- 65 学術集会等を介して、他研究機関の研究者との情報交換が出来る点。
- 66 研究と家庭を両立している女性研究者が存在することを知ることができた。
- 67 学会を通して得た知識と人間関係により研究業績、教育に成果をもたらしたと思う。
- 68 多様な情報収集の機会(学会、雑誌、メール等)を持てることにおいて役立っています。
- 69 学会に女性が多いため、学会等で女性の先輩方に接する機会があり勇気づけられた。
- 70 学会発表の機会があった。大学の講座が薬理だったので、先輩・後輩との交流の機会が増えた。
- 71 女性で、独立研究者として活躍している方々と知り合うことができた。ポスドクのリクルートができた。
- 72 学会参加の機会を与えられ、プレゼンテーションの勉強になった。また、いろいろな研究者の方と接することができ、新たな分野へ興味をもつきっかけとなった。
- 73 学会に参加することで情報収集だけでなく、刺激を受けることができた。また、世代を超えているいろいろな方(同年代、上の方も含め)に出会えたことは非常に良かった。
- 74 研究発表や勉強の場としてはもちろんのこと、他大学の先生との情報交換の場としても有意義であった。
- 75 研究の発表の主な場であり、他の研究者との主な交流の場にもなっています。これまで多くの有意義な出会いがありました。
- 76 学生時代から入会していたが、大学の指導教官を介し、様々な先生をすることができた。就職に際しても、推薦状を書いていただいた。
- 77 ネットワーク構築、新しい情報入手、自己研鑽、自分・部下のモチベーション等。尊敬できる諸先輩(藤井儔子先生、田中千賀子先生等)を身近に感じられたことは本当に有意義だった。

### 学会併設の託児所に関するご意見

- 78 学会の託児所で同じように子どもを預けて学会に参加する研究者をみて勇気づけられたこと。

## 22 薬理学会に入会したことが、あなたのキャリアパス形成に役立ちましたか？

いいえ、と答えた方は、どのような点で役立ちませんでしたか？ 100字以内で書いてください。(回答者数46名)

### 学会に関するご意見

- 1 変化なし。
- 2 目的外。
- 3 特に変化を感じない。
- 4 入会したばかりでわからない。
- 5 入会したこと自体は何も関係ないと思う。
- 6 入会したばかりなので、まだわからない。
- 7 入会したことでの変化を特に感じていません。
  
- 8 役立った実感がない。
- 9 役に立ったと感じたことがないから。
- 10 役に立った点が見当たらないから。
- 11 役立たないというよりも、変わらないと思う。
- 12 役立たないというよりは、キャリアパス形成とは直結していないと思いました。業務上、薬理に携わるものとして、学会等を通じ勉強になることは多いと感じています。
  
- 13 学会への入会は評価の対象となっていない。
- 14 学会で発表するためだけに入会したため。
- 15 学会に入会したこと、キャリアパス形成には関係が少ないから。
- 16 学会発表、論文公表以外の学会活動への参加の機会がなかった。
- 17 薬理学の専門家としての自分自身の評価ははまだ確立されていない。
- 18 薬理学会において自分と同じ分野の研究がほとんどなくなってきたため。
- 19 学会の名誉会員選出や、理事や役員への選挙はもっと実質的活動で女性枠を増やす必要がある。
  
- 20 本年4月採用の為、不明。
- 21 学生なので実感がない。
- 22 学生なので今はまだよくわからない。
- 23 関係なかった。よく知らない。
- 24 企業での業績に全く関係しない。
- 25 参加はただの所属でしかなかった。
- 26 まだ、キャリアを積むほどの経験がない。
- 27 インターネットで学術情報入手が可能のため。
- 28 企業研究者なので、処遇にはほとんど影響しない。
- 29 企業では学会入会とキャリアが結びついていないから。
- 30 就職した後において、特に何のメリットもないからです。
- 31 所属組織に女性に対するキャリアパスの発想が貧困。
- 32 大きな影響を与えたと考えられる事項は、特にありません。
- 33 未だキャリアパス形成に関わる段階に至っていないので。
- 34 転職により研究職・技術職から別の職種へ異動となったため。
- 35 今年4月に入会したばかりであるため、まだ役立つ機会がありませんでした。
- 36 情報収集はできたが、学会発表の機会もなく、キャリアパス形成としては役立ったとはいえない。
- 37 業績の社会貢献に薬理学会の学術評議員と挙げていても、自分の地位はまったく変わりが無い。
- 38 企業に勤めており、他のキャリアを希望しているわけではないため、学会に所属していることのメリットが特にない。

- 39 研究室は薬理学講座だが、行っている研究は薬理学に関係ないので学会発表しても他の人とあまり交流できないから。
- 40 私の所属する企業においては、学会員だからといって、学会参加や学会発表の機会が増えるわけではありません。
- 41 自由が利く間は長の秘書的な用事で発表等を集中して聞くことが出来ず、だんだん研究からも離れた仕事になってしまった
- 42 自己啓発的な要素が大きい。学会費も自分で支払っており、会社から評価の対照にならない。企業の場合、発表の評価より特許出願のほうが評価につながる。
- 43 キャリアパスに役立つのはやはり人とのつながりと思います。それが本学会と直接つながっていたわけでは(私の場合は)なかったように思います。
- 44 本来の専門分野とは異なるので、勉強になる反面、キャリアパス形成に特に役立つこともなかった。そもそも学会に対してキャリアパス形成に役立つことを求めている。
- 45 まだ研究職に就いておらず、薬理学会への参加もここ数年できていません。研究職に就くことができた際には薬理学会入会が、私のキャリア形成の基盤になるかと思うのですが。
- 46 いい意味でも悪い意味でも女性だから男性だからという配慮が無い。出産後地方から学術集會に参加することが出来ず、機関誌を受け取るだけの日々が続いている。交友関係は広がらない。

## 23 男女共同参画に関数するご意見がありましたら、100字以内で自由にお書き下さい。（回答者数50名）

### 学会の対応に関するご意見

- 1 日本薬理学会として企画したものが、好評または成功であったことについては、他学会にも公表し宣伝すべき。海外の良いモデルは積極的に取り入れるべき。
- 2 薬学部的女子学生数の多さを考えるとこれまでの本学会の対応は遅れていると思う。少子化の昨今、性別にかかわらず個人の潜在能力を最大限に生かす取り組みは重要である。
- 3 前回の年会で託児ルームの設置をしなかったのはなぜですか？遠方からの参加者にはやむを得ず子供連れで行かなければならない場合もあります。託児不可だから参加できない、という者がいることを忘れないで下さい。

### 女性支援制度の充実に関するご意見

- 4 女性支援制度をもっと充実させる。
- 5 女性研究者ネットワークを学会でも立ち上げてはどうだろうか。
- 6 女性支援事業で支援される女性は既婚者が育児中か介護中。女性特有疾患での休業や更年期障害等のケースは無視。未婚・子供なし・中高齢の女性は研究者に限らず不要ということですか。
- 7 私が就職してから過ごした時代は、大学院卒女子を採用してくれる職場も育児休暇もなかったが、何とか研究を続けている。男性だけでなく女性研究者も育成していく環境作りが重要だと考える。

### 地位向上に関するご意見

- 8 指導的地位にある女性研究者は増えることを望みます。
- 9 医薬学部の女性教授が少なく、男性の逆ピラミッドになっている。女性枠を30%にする行政指導が必要。
- 10 18の質問に関連して、女性が育児や介護のために社会活動に参画しにくくなっている場合もあると思うが、指導者の立場になるような場合に、これらがどの程度考慮されるべきかは難しい問題だと考える。

### 子育てとの両立支援に関するご意見

- 11 働く女性の家事育児のケアをしっかり行って欲しい。
- 12 博士課程は最短で卒業しても27歳となるため、特に出産・育児を望む女性が博士進学を諦めるケースが多い。
- 13 育児についての理解をもっと深めてほしい。また、男性も育児休業するべきだと思う。
- 14 出産・育児をしようと思えば仕事を辞めざるを得ない現状がどうか解決されることを望んでおります。
- 15 育児や介護など女性に負担が強いられる場面など、実際に助成が必要な時・場所で優遇措置をとれるような制度や環境を配備してほしい。
- 16 近年、常勤も任期制を導入され、制限ある時間の中で女性が出産、子育てをしながら研究を続けることがより厳しくなってきました。後進の女性研究者のためにも女性が研究を継続できる環境作りの必要性を感じます。
- 17 現在のサポートは子供がいるか否かで差が大きすぎるように思う。もちろん子供が居る方を重点的にサポートするべきだが、現況では子供がいない場合のサポートは皆無に等しい。また、子供が居る際の男女間の平等性は？
- 18 仕事は、主婦をしていると夜遅くまで働けない制限がある。全く平等というのは、性のもつ特異性があるのでできないと思う。ただ、昇進に関しては、まだ平等でないと思う。
- 19 主人も薬理学会会員なのですが、子供(1歳児)がいるため学会や研究会に二人で同時に参加するのが困難です。年会では託児所もあったかとは思いますが、部会ではなかなか預ける手段がありません。
- 20 出産、育児期への配慮をシステムとして行うこと、種々の研究会、審議会に女性研究者を暫くの間（これから10年くらい）一定の割合で加え、育成することが必要。
- 21 大学・研究機関では性別に関わりなくポストを決めるようになってきています。子供や家庭を持った上でいかに実績を積んでいくかが問題です。託児所などの整備や家族の理解が必要ですし、本人の努力も必要です。
- 22 女性の働きやすい環境を作る意識を持つことが、まず必要と思われ、少しずつでも具体的に事が進むといいと思う。学会での託児施設（無料）があるのは、本当に助かっており、ありがたく思っています。
- 23 実際に妊娠・育児と仕事の両立をしている時期に任期職だと、評価が非常に短期的になるため、一時的に低評価がつきがちです。もう少し長い目で評価するシステムをつくっていただくと嬉しいです。

### 男女共同参画に関するご意見

- 24 男女共同参画ではなく研究者として考えられると良いのではないのでしょうか。
- 25 男性の、家庭における協力、職場における理解が不可欠だと感じております。
- 26 男女共同参画なのに多くの場合女性が中心になっています。男性の具体的活動への参加を望みます。
- 27 男女問わず全ての人に、強制的にでも周知すべきであると思う。今現在「知らない」人が多すぎる。
- 28 どの学会でもそうだが、男女共同参画に関与する人は一部の人に限られ、全体に広がっているようには思えない。音頭をとるのは男性で、結局言いやすい人に声をかけ帳尻を合わせるが、単に儀式なのではないでしょうか。
- 29 真の意味での共同参画の実現には男性の意識が変わらないといけない。大学での教授クラス企業での部長以上、の男性の意識、発言、行動が改善される必要があると思う。

- 30 女性のかかえる個々の問題を、男性に理解してもらう場を設ける必要があると思います。また、現在、男性側から見た、女性の現状あるいは、女性に対する要望も調べる必要があると思います。
- 31 女性の場合、男性より働き方が多様になる場合が多いため、それを認容する柔軟なシステムが必要と思います。
- 32 1.日本古来から 男性の女性への意識が低く、いつまでも そのままである。2.各種委員を決める時、男性は根回しによる票集めをしすぎる。適任者ではなく、集票勝利者で事が決まっている。

### 法制度に関するご意見

- 33 法律や規則により組織における男女比を規定すればすこしは前進すると思う。
- 34 このように特別に構えなくてはならない状況こそが、先進国ではない日本の実体かと思います。
- 35 育英会の奨学金の返済免除職の中断猶予期間が短いので出産・育児など考えられない。博士課程までの貸与額は相当大きいので、任期付きのアカデミアでは子供を持つことは難しい。
- 36 男女共同参画ではないですが、労働基準法が変更になり、求人では特別な理由がない限り年齢制限はできなかつたと認識しています。現実的には採用側が年齢で判断している部分もあると思いますが。
- 37 日本という国全体の、男女に関わらず仕事と家庭に対する考え方自体が問題(転勤は当たり前など)。うわべだけの制度を整えるだけでは前に進まない。

### 意識改革に関するご意見

- 38 制度や法律よりも「優秀な女性はいかしくない」という価値観の根強さのほうが問題。
- 39 そもそも、このようなことをしなければならないこと自体が差別意識を生んでいる。
- 40 そもそも、このようなことをすること自体が、不平等が存在する状態がある証拠。
- 41 個人的には本当に頑張る人は制度がなくても頑張るので、周りの気遣いが必要と思います。
- 42 全体の意識が変わらないと無理だと思う。運よく支援をうけられる人だけが救われるのでは？
- 43 世界中の研究機関や、研究成果を実現できる企業との連携を進め、研究者の世界観を広げ、偏見を軽減すべき。
- 44 家事などで女性の負担は確かに男性より多いが、それを活躍しないことの理由にしてはならないと思う。
- 45 子供を産まない女性を否定している考えが強いように思う。仕事に対する責任感や現状で仕事を中断することに対する不安から子育てはできない。
- 46 研究や仕事をしたいと強く希望する女性に、その道が確保され、経済的にも自立できるような選択肢が広がることは望ましいと思います。しかし、甘えは許されないとの自覚も必要でしょう。
- 47 先人の努力により、女性研究者が増えたように感じる。しかし、研究に従事する者とその時間の一部を家庭生活や子育てに費やす者が同じ評価になりにくいのは、事実である。
- 48 差別と区別は別物。何でもかんでも平等だと叫んで男女一緒にしようとする風潮はいただけない。もともと男性と女性は違う物だと認識してその違いを生かした仕事環境にするべき。
- 49 採用で女子枠を作ることは良いと思わない。採用女子の質が下がれば逆効果。上を目指す人は男女をとわず一番大切なものは何か常に自分に問いかけているはず。
- 50 12の項目常勤職員の私が回答してしまい消去できませんでした。男女問わず生活を大切にできる研究活動を行いたいと思っていますが、成果と研究時間が比例する部分もあることは事実で、難しい問題とっております。